

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>忍路中央小 5月31日</p>	<p>1 あくまでも小樽市内の子どもたちは小樽市内の学校に通うということを前提にして作られたプランだと思うが、現在も忍路、蘭島地区からは余市に通っている子どもがいる。 教育委員会ではそれを認めていることからすると、蘭島地区の子どもたちは、距離とか利便性から、余市へ通う方が近いし、便利だということも考えられるが、その辺はどのように考えているのか、お聞きしたい。</p>	<p>区域外就学の件だが、現状、忍路中央小学校では6名の方が余市町の方へ通学している。また、中学校では2名の方が通っている。区域外通学は、受け入れ先の学校で通学を認めるというものが出来、そちらへ通学できるということになるので、保護者が希望しても、必ずしも認められるものではない。</p> <p>小樽市内の学校の場合に、忍路中央小学校に指定されているが、塩谷小学校に行くという場合もある。これは特認(指定校変更)といって、この場合は保護者が小樽市教育委員会に、こういう理由があるから指定された学校ではなく、隣の学校へ行きたいという申請、申込みに見えられる。市教委では、特認を認める理由をいくつか要綱で定めており、それに合致すれば認めている。</p> <p>自治体をまたがっていくケースは、区域外就学と言うが、これは形が違い、例えば、この校区の方が余市に行きたいと言った場合に、ここの保護者が余市町教育委員会に(手続きに)行く。特認と理由は似ているが、こういう理由で小樽の忍路中央小ではなく、余市の小学校に入りたいと、余市町教育委員会に相談をする。余市町教育委員会が、余市の子ではないけれども受け入れるとなると、余市町教育委員会は小樽市教育委員会に協議、こういう申し出があって、余市町教育委員会としてはその理由が妥当だと考えるから、余市の学校に入れて良いかということをお小樽市教育委員会に同意を求め、協議をして、それで(小樽市が認めると)良いですとなる流れで、特認と似ているが流れが違う。</p> <p>担当課長から説明があったが、ここ(忍路中央小)は6名ほど、全体で40弱の数であるから、6名というのは決して少ない数ではないと思っている。理由は色々あるが、兄弟、姉妹がもうすでに通学している、幼稚園は余市の方に通っていたなど、そういった理由で手続きをするが、私どもとしては、保護者が余市町教育委員会へ行って、余市町教育委員会が受け入れると協議が来たものをそれが駄目だということにはならない中で、ここ数年増えてきているという現状にある。小樽市教育委員会としては大変残念なことだとは思っているが、実態としてはそういうこと。</p>
	<p>2 プランの中で、小学校のプラン4、9ページの中で、今までの説明では全体の学級数ばかり言っているが、この下の学年別内訳を見ると2年生Aグループ71人で3学級となっている。その隣では3年生76人で2学級となっているが、40人で1学級が基本と思っている。</p> <p>1、2年生に対しては、35人の特例だったかと思うが、今日ざっと見ると、1名まだ若い保護者の方がいるので、その辺良く分からないのではないかと。忍路にはクラス分けがないので、そういった部分をきちんと説明しないと、71人や72人で3学級だと25、6人くらいの1クラスが、次の3年生になると30何人の結構な人数になるので、びっくりするのではないかとと思う。</p>	<p>北海道の制度で「少人数学級実践研究事業」というのがある。基本的には、1学級40人で編制するが、小学校では1年、2年を対象に、2学級以上になった場合に、1学級当たり35人で1学級としている。数字で説明すると、1年生で71人いると、普通の場合2学級だが、2で割ると35人を超えるので、この場合は3学級となる。これは、1年から6年までではなく、1年生と2年生になるので、仮にこのまま推移した場合、2年生までは3学級、3年生から2学級に戻るという形になる。これが「少人数学級実践研究事業」といわれるもの。</p> <p>中学校の場合には、1年生のみこの制度の対象となる。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中央小	<p>3 統合の時期について、前期、後期に分かれていて、前期8年となっている。新聞記事では、2015年度(H27)には既に統合されているような記事が出ていた。正直なところ、このまま順調に進めばいつくらいにこの地域は統合する予定を考えているのか。</p>	<p>統合の時期だが、会長さんのお話のとおり、前期8年という計画の中で進めている。ここのブロックでもそうだが、統合がいつだということはまだ言っていない。前期8年の中でやっていくということなのだが、こういった懇談の場を繰り返して、保護者の皆さん、地域の方、そういった皆さんの一定の合意が得られる、そういう時点で、統合していきましょう、ということで話を進めていくので、現時点でいつといった、期限を区切った設定はしていない。</p> <p>どこの会場でも聞かれることなので、統合時期の関係全体をお話させていただく。平成22年から15年間の極めて長い計画になっている。それは市内41校全部を対象にしていく、あるいは古くなった学校校舎の建て替え、耐震工事もしていかなければならない中で、一律に15年間ではなく、前期と後期に分けている。前期は、今年から平成29年までの8年間、後期は30年から36年までの7年間としている。前期、後期に区分けをした理由は、小さい学校が集中しているところ、多くあるところを前期に手をつけていかなければならないという考え方を持っている。塩谷・長橋地区についても前期に位置付けている。後期の部分は、銭函地区、朝里地区は、まだ一定程度の規模の学校の比率が多いことから、豊倉、張碓の小さい学校も一部あるが、地区全体としてはそういう状況だ。</p> <p>色々な会場でご質問いただいているが、前期も実際にやるのは平成29年なのかとの質問があった。お答えは、前期のブロックだけでも四つあるから、それぞれのブロックによっていろんな議論とか協議の進捗状況が違うと思っている。前期の部分であっても全部同じ時期にやるとは考えていない。一定程度、話が合意ができた所から順次やっていこうというのが基本的な考え方。</p> <p>先日塩谷小学校の会場でこういったお話をさせていただいた。ある方から、最短で具体的に(統合が決まった)なった場合に、どんな日程を考えているのかというお話をいただいたので、その際のお答えをお話します。</p> <p>例えば、今年統合校をA校にしようとした。そのA校に色々な校区から通っていくために、どの通学路を通っていくのか、ここの地区の場合当然バスの問題がでてくる。小学校であればスクールバスだが、中学校の場合は部活があるのでスクールバスではなく、路線バスを使って定期代を助成することがどうなるのか。もっと言えば、校名がそのまま良いのか、統合校だけの校名で良いのか。校歌はどうなのか。小学校1年生に入学された際にそれぞれの学校で、教材を購入するが、統合するグループの中でそれが同じものなのかといったことも、事前に準備をしておき、実際に統合しなければならない。もちろん子どもさん同士の交流もやる。昨年の説明会の際に、ある保護者の方から、1学年5人、6人の学校から、仮に長橋を統合校とした場合に、1学年2クラス、3クラスという学校であるし、1クラスも30人ほどいるわけだから、びっくりしてしまうと。そういう通学路とか物理的なものだけではなく、事前に心のケアといった部分を含めて必要なのではないか、準備が必要なのではないかといったことも出た。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中央小		<p>私どもとしては、まず統合校が決まる、一定程度の合意ができる。次に、その準備のために何をしていかなければならないのかという議論も最低でも1年はかかると思っている。保護者同士の話もある、先ほどの子どもとの交流の話もあるから、今日お配りした資料の「学校の統合を進めるに当たって」の左側に書いてあることを議論していく。これが1年で済めば良いが、仮にそれが2年かかるのであれば2年でも良いと思っている。時期を決めないというのは、一般的に時期を決めないということではなく、統合準備に向けてどういう段取りで話をしていくかということが必要だろうと思っている。</p> <p>もう一点、今日お配りした資料の2ページ目下段のところ、「統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。」とこれは今申し上げたようなことだ。ここでもう一つ課題となるのは、この地区は小学校も中学校も統合していかなければならないと教育委員会は考えているので、そうした場合に「その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。」と、これも塩谷である方から発言があったが、小学校で統合を経験した。その子が1年生だったとする、そうすると卒業まで5年間ある。その子が今度中学校に行った時にまた統合を経験するというのは、基本的には避けていきたいという考え方を持っている。そうではない場合も保護者の皆さんとの協議の中ではあるかもしれないが、基本的なスタンスとしては2度繰り返さないとしている。その場合、同時にやるというのもあると思う。また、中学校をやってから、一定の期間を置いてから小学校という場合は2回経験することはない。そういった議論も必要になってくると思っている。</p>
4	<p>中学校の方にはないが、この資料を見ると本年度、忍路中央小学校には特別支援学級が1クラスでき、1名在籍している。去年の資料では、塩谷小学校でも特別支援学級に1名在籍していて、プランを見ると、ほぼ、長橋か幸かどのプランになるか分からないが、通学距離が長くなる。そういった場合、特別支援学級に在籍している子どもたちがスクールバスなどに乗っていくとか路線バスになるのかどうか分からないが、そういった中で通学する不安というのは保護者がすごく持つと思うが、その辺は教育委員会としてどうお考えなのかお聞かせください。</p>	<p>この学校再編は、学校を半分程度にするという計画になっているから、多くの子が通学距離が長くなる。それは特別支援学級の子であっても、通常の学級の子であっても同じにならざるを得ないと考えている。もちろん、お子さんの状況にもよると思う。繰り返しになるが、私どもとしては統合に当たっては色々な課題を協議しなければならない。その中で、特別支援学級にいるお子さんが例えば10キロバス通というのが無理だとすれば、どのような方法が可能なのか、100%無理なのか、そういった具体的な議論をさせていただかなければならないと思っている。例として、小樽から余市養護学校に通われてるお子さんも30人ほどおられる。この方々は、余市養護学校で用意しているスクールバスで小樽から通っている。そういった形態も考えていかなければならない。遠くなったけれども、勝手においでということで済むのか、済まないのか。そういうことも含めて考えていかなければならないと思っている。</p> <p>一般的に想定しているのは、小学生の場合は基本的にはスクールバス。中学生の場合は帰りの時間帯のスクールバスというのは難しくなるから、そこは色々協議をさせていただかなければならないと思っている。</p> <p>この塩谷・長橋ブロックでは、長橋小学校がスクールバスで、この小学校の概要の中にもあるが、長橋小学校380人くらいのうち110人くらいバスで通っている。この中に特別支援学級のお子さんがあるのか資料がないのでわからない。銭函小学校でも、在学学生390人くらいのうち160人くらいの子どもがスクールバスで通っている。これも特別支援の子どもさんは分からないが、スクールバスの形態が特別支援のお子さんが利用できるかどうか、それは個々の子どもさんの状況を見ながら、当然保護者とも十分話をし合いをして、理解を得ながらやっていかなければならないと考えている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中央小	<p>5 先ほど統合の時期について聞いたが、それはまだ未定ということだった。どの学校にするのかというのは今後どういう形で決めていくのか。</p>	<p>今後の部分だが、まず、今回このブロックを含めて、5月からこのような懇談会を全校36会場で行っていく。その学校によって状況は変わってくると思うが、私どもとしては、まず一度こういったお話し合いをさせていただいて、地域の皆さん、保護者の方の意見を聞いていく。さらに今度は、それを踏まえて、こちらにお邪魔するという形になると思うが、その際にはこの学校単独でお邪魔する場合もあるかもしれないし、このブロックの塩谷、長橋の保護者の皆さんも含めた場を設定する。また、PTA関係の会合があればそういった場にも、呼んでいただければ私たちは参るので、皆さんとの意見交換の場を踏まえながら、統合に向けたお話をしていきたいと考えている。</p> <p>塩谷・長橋地区は、日程調整の関係で、懇談会は大分進んでいる。この地区では、今日終わると残るのは、長橋小学校と幸小学校。塩谷小・中の懇談会では、(統合を)決めた以上はあまり長く、ただだらやらないで進めてほしいという意見もあった。この懇談会7月22日まで予定しており、まずは一当たりやっていく。次の段階で、それぞれブロックごとにどういう意見が出ていたのか、どういうご希望が出ていたのか、もちろん賛成の方もいる、反対の方もいる。その辺をブロックごとに集約して、こういう個別学校とやる形が良いのか、それとも小学校グループ、中学校グループという形が良いのか。あるいは、こういう地区だと小・中一緒にやる形、どういう組み合わせが良いのか、一当たり終わった段階で、総括、まとめるところはまとめながら、PTA会長さんなどに相談をさせていただき、次の進め方については、色々なパターンの中で議論のしやすいような形を探していきたいと考えている。</p>
	<p>6 プrintの「学校の統合を進めるに当たって」の左側に統合が決まった後のスケジュールのようなことが書かれているが、これ、決まる前に色々な部分、通学のもの、色々な場合があると思う。3校、4校が一緒になるのだから。そういったメリットもたくさんあるだろうし、その反対のデメリットもたくさんあると思うので、それを包み隠さず全部出して、その中で保護者に判断してもらったり、地域の方々に判断してもらったりしなければならないと思う。</p> <p>今回の資料では、学校の規模だけでしか、今回は説明、中心的な説明はそれだけだ。スクールバスになるのか、通学の手段とかそういった部分はバスになるであろうという部分で、それ以上踏み込んだ部分が一切書かれていない。ここが統廃合になった場合には、歩いてはいけない距離だから、そういった部分をきちんと保護者側に示して、人数が増えてこういったプラス面があるが、通学とかそういった部分ではマイナス面も、また人数に関してもマイナスの面も色々あると思うので、それをきっちりと、統合が決まる前に保護者に示してほしいと思う。</p>	<p>そのとおりだと思う。このペーパーでは、機械的にまず統合校を決めます、とそれが決まってから、通学路の選定などを決めますと書いてあるが、これは結構一体化した話だ。統合は小樽市の現状から必要だと思っているが、プラス面はあると思っている。ただし、マイナス面もあるのは事実だからプラス面を前面に押し出すために、マイナス面をどれだけ軽減できるかという議論になるだろうと思っている。統合を決めてから、通学距離、子ども同士の交流とか、子ども同士の交流は一定程度決まらなないと出来ないが、特に通学路などは、いきなり統合協議会ではなく、仮に長橋小学校にするのであれば、ここはこういうことをしてもらわなければならないという議論を何回かやり取りしながら、最終的には、統合校を決めていくという作業があると思う。統合を決めてから全部条件ではなく、条件と行き来しながらやっていかなければならない。その場合に、単独の学校単位の場合もあるし、先ほど言った色々な組み合わせでやる場合もあるのではないかと思っている。この地区は5校を2校にするが、正直に言って、5校の代表者の方を集めてどれにするかというような議論にはならないと思っているので、そこは丁寧にやっていかなければならないと思っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中央小		<p>昨年の忍路中学校の説明会で今のお話とほぼ同じような、統合にはデメリットが必ずあって、その影の部分はきちり話をして、そうでないところといった問題は中々理解を得られない、といったお話をいただいた。今回も、プランをそれぞれ出しているが、教育委員会事務局では、通学距離という部分では、どちらかという、長くなるということにはこれまであまり触れていなかったところもあったが、今回はあえて11キロとかそういうところも見せているつもりだ。さらに、工事の必要性についても、耐震工事や増築工事をやると、そのことによって経費がかかるというコスト面での部分も、色々検討する時の材料にしてほしいという思いはある。小規模な学校の関係で、中心部の堺小学校が稲穂小学校と花園小学校に統合された。他の会場でも同じように、どういった課題があるのかというような質問があったので、教育委員会の説明員に当時の堺小学校の教頭がいるので、どのようなことに取り組んで、それぞれの学校に送ったかということを紹介する。</p> <p>平成18年3月に堺小学校は閉校し、その時に教頭をしていたが、「保護者と子どもが困らないように」を合言葉に、地域の方も校友会とか色々な意見があった。反対も賛成もあったが、とにかく子ども、保護者が困らないようにということで取り組んでいたことを覚えている。今回のように長いスパンではなく、半年とか、その前から体制は組んでいたが、決まってからは半年くらいしかなかったから、特に保護者や地域の方の心配というのはそこが大きかったと思う。そこに向けて教育委員会と協力しながら、地域の方の理解を得ながら、登下校の安全も実際に保護者と一緒歩いてみたり、学校間交流を頻繁に行わせていただいた。あとは、校内体制として整えられることはとにかく整えようということで、学校運営の委員会や教育課程の委員会を作り、児童の実態を把握するというので、自校(堺小学校)の子どもたちの様子や相手校の様子も十分把握して、交流をとにかく推進しよう。小さい学校から大きな学校へ行くので、どうしても自分を表現できない、大きな中に入って尻込みしてしまうこともあるので、できるだけそういった場に慣らさせようという取り組みもした。また、部長からあったが、教科で扱ってないものはないか違いも把握するというので、統合が決まってからはできるだけ早く慣らしてあげようということも取り組んだ。あと、PTAの関係、親同士の交流というのもやった。さきほど、おっしゃってたかと思うが、色々心配な点はたくさんあったかと思う。初めに申し上げたように、子どもと保護者が困らないことに関して何とかしようということでは、当時の教職員が一致して取り組んでこられたかと思っている。地域の方も同じようにしていたし、教育委員会も同じように足並みを揃えて進められたと思っている。</p>
7	<p>統合先は、忍路は多分幸か長橋になるのだろうか、統合の仕方としては吸収合併なのか。それとも3校を一回閉校して、新たに学校を作ることなのか。今の段階でどのように考えているのか。</p>	<p>考え方としては、今回はあえて学校再編といっている。A校をB校、C校に分けるという考え方ではなく、小樽市の41校全部を対象にして再編していこうと思っている。この地区には5校の学校があるが、新しい学校を2校作っていこうというのが私どもの基本的な考え方。先ほども申し上げたが、校名をどうする、校歌をどうするといった議論もしていかなければならないと思っている。難しいのは、塩谷の方では、それぞれ伝統というものがあるのだからそれもやはり大事にしていかなければならないという意見もいただいた。なんでも、今後の議論、今後の議論といって申し訳ないが、それぞれ学校ごとの考え、それぞれの個々人の考えもあるかと思うので、その部分は十分議論していく、私どものスタンスとしては学校再編という形で考えている以上、新しい学校を作っていくということを念頭に置くということは基本として考えていかなければならないと思っている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中央小	<p>8 小学校の通学はスクールバスという考えだが、例えば遅刻とか早退とかの場合にはどのようにお考えなのか。</p> <p>9 今のスクールバスの答えだが、もし途中で具合が悪くなって帰らなければならなくなった場合、距離が遠い。ここの小学校でも中学校でもある程度だったら歩いて帰っておいでと言えるが、必ず路線バスなどに乗って帰らなければならぬわけで、そういった場合はどう学校側で対処しているのか。また行ってから学級閉鎖になった場合に、1時間、2時間してから帰ってくる。その辺のところ詳しく教えてほしい。</p>	<p>現状をお話しする。市内で3か所、忍路中央小学校と長橋小学校、銭函小学校で、忍路中央小学校の場合は自前のスクールバス、長橋小学校と銭函小学校の方はバス会社に委託してやっている。忍路中央小学校の場合は、1名なので遅刻ということはない。長橋小学校と銭函小学校については、朝2便出している。必ずどちらかに乗ってというお願いをしている。帰りについては、時間割に合わせて4便、5便運行している。最終便は16:00、16:30をめぐりにスケジュールを組んでいる。2便出しているの、必ずどちらかでお願ひしているが、乗り遅れた場合はある意味実費を想定するが、スクールバスを自前で走らせるのか、委託の場合でも2便で対応できるのかというのは今後の検討課題と思っている。</p> <p>このバスは、桃内小学校の経過、直営、市自前のバスでやってきた経過がある。今のバスはある方からご寄付いただいたもの。今後、スクールバスを出していかねばならないと思うが、基本的にはJRバスや中央バス、また他に路線バスを持っていない事業者もいるので、そういった業者にお願ひするというのが一般的か。市がバスを持って、運転手を雇ってやるというのは、結構難しい面もある。朝はあるけど、しばらく無い。ここのバスは学校の色々な行事で使わせていただいているが、流れとしては、専門の業者さんにスクールバスをお願ひするという流れになるかと思う。</p> <p>私の知っている範囲では、スクールバスの帰りの便は、その子どもさんのためにだけ出すわけにもいかないので、親御さんに連絡をして迎えに来てもらうか、一人で路線バスに乗って帰られるという状態ならそれはそれで良いが、そうではない場合、緊急の場合はタクシーで送り届けるということになる。これは養護教員の場面になるが、そういう事例も想定している。学級閉鎖などの場合には、できるだけ対応できるようにしていると思う。それはケースバイケースでやっている。</p>
塩谷小・中 5月19日	<p>1 資料について、色々な数値が27年度とされている理由は何か。これ以上、早いパターンはないと考えた方が良いのか。</p> <p>2 バス通学となる場合は、バス料金などどのようになるのか。専用のバスを出すとか、中央バスを使うとか。どのようにしているのか。</p>	<p>27年度というのは、昨年度策定した適正化基本計画のまとめに当たって、将来の児童・生徒の推計に、その時点で、生まれた子どもさんたちの実数を置いて、学校に入る年齢で整理したもの。一昨年の段階で生まれた方が27年度に小学校に入る方なので、それを整理した。</p> <p>もう一つ、27年度までにしなければならぬのかという話ですが、基本計画の中では、全体で15年間、前期は22年から29年までの8年間、30年から36年までの後期7年間で考えている。前期に再編をする地区は小規模な学校が多いところ、塩谷を含むこの地区についても前期計画の中で取り組むこととしており、最後まで、または27年までやらないということではなく、このような懇談会を進め、皆さんとの協議が整った段階で次へ進めていくという考え。</p> <p>今現在、市内では、スクールバスが3台、忍路中央小学校への通学用、長橋小学校への通学用、銭函小学校への通学用とある。利用者はおおむね250名程度。通学のバス助成と制度があり、小学校の場合片道2キロ以上、中学校は片道3キロ以上の場合に対象となる。現在120名程度の利用となっている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
塩谷小・中	3 中学生の場合、部活がある。部活で遅くなった場合には、どうなるのか。	基本的なことを話すが、通学支援は、小学生は片道2キロ以上、中学生は片道3キロ以上としている。小学生の場合は、基本的にはスクールバスを用意しており、市で持っているのは1台ある。蘭島方面からは中央バスに、銭函方面はJRバスに業務委託して実施し、全部合わせると5台走っている。中学生は、部活の関係もあり帰りの時間が一定にならないことから、スクールバスではなく通学定期代を全額助成している。
	4 それは部活をしている生徒のみが対象ということか。スクールバスを使っても、使わなくても全員に無償で交通券を出しているということか。	違う。部活があるので、スクールバスということにはならないので、全部の生徒に通学定期代分を助成している。 学校にバス通学をしているという確認をしてもらっている。中には、中学生で片道3キロ以上あるが、うちの子は元気良から歩かせるという親御さんもいる。その場合には、助成していない。あくまで、実費相当を出すというやり方。
	5 保護者の負担はないということか。一定の距離を超えるとその負担はあるのか。	スクールバスを利用した場合にしても、路線バスを利用した場合にしても、一定の距離を超えるという距離要件はあるが、保護者の負担はない。 小学校では2キロ以上の方。中学校では、3キロ以上の方を対象としている。
	6 今は、通学はその範囲内で収まっているのか。忍路にするとか、塩谷にするとか話していることに対する距離の考えは、その範囲で収まると考えているのか。	2キロを超えれば対象となるので、5キロであろうが、10キロであろうが構わない。それを超える者がいれば、それは対象として支給する。昨年の実績でも400人ほどいる。
	7 塩谷の場合、文庫歌から浜の方を回って通う人もいるが、スクールバスは、文庫歌から浜の方を回って、今の終点のところまで回ることになるのか。	具体的な通学方法の話になるが、実際に統合校が決まった場合に、資料「学校の統合を進めるに当たって」で若干説明したが、統合校が決まれば、地域の方や保護者の方を含めた「(仮称)統合協議会」を組織してスクールバスか路線バスか、またバス停まで歩いて行くのか、スクールバスはどこまで来るのかなど、具体的に協議する組織を作って、具体的な通学方法を定めるということになる。
	8 塩谷を統合して、長橋となった場合に児童館はどうなるのか。学校の帰りに児童館に預けているのがどうなるのかということを知りたい。	ここは児童館を使って、守る会など色々活動をしていることは承知している。学校がなくなるから、児童館がなくなるということはない。 放課後児童クラブについては、議論しなければならないと考えている。ここに限らず、統合校に移った場合には、放課後児童クラブの子どもは増える。増えることによって、放課後児童クラブの利用ができないということはない。一つの教室でできない場合には、二つの教室で行うことで対応する。この場合、仮に長橋小となった場合には、長橋小のクラブに入る場合と塩谷の児童館の児童クラブを使うということが考えられる。この場合、どのように輸送するのか、相談しなければならない問題だと思っている。 今でも、放課後児童クラブがあり、スクールバスを運行している学校は、最終時間を決めている。授業が2時に終わった。放課後児童クラブに行きました。児童クラブへ行ったら、あとは勝手に帰ってということにはなっていない。児童クラブの時間に合わせてスクールバスの最終便の時間を決めている。そこは、色々意見があると思うので、色々な選択肢の中で協議していかなければならないと考えている。

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
塩谷小・中	<p>9</p> <p>プラン4を作っているが、その理由を聞かせてほしい。また、27年度数値を基としていて関連するが、自分の子どものこととして考えてしまう。前期計画の中で、適正、適切ではない状態の学校に自分たちの子どもが通い続ける、教育委員会が言う、適正ではない数の学校で卒業していくことになる。個人の意見として、誤解を恐れずに言うと、やるならチャッチャとやってほしい。どうしても自分の子どものこととなると短絡的に考えてしまうことがあり、長期的にといわれらると関係のないことだと単純に思ってしまう面もある。</p> <p>ここは、塩谷小から塩谷中だけに進む、他から混じることのない特殊な環境にある。なし崩し的にというのであれば、中学は別のところを考えたいとの話を良く聞くので、もしポロポロと崩れていくような感じになり、中学の状態がどうなったのか。それと、塩谷中に行くこと自体が残された者という感覚になるのではないか、そのあたりをどうお考えなのかお聞かせ願いたい。</p>	<p>プラン4だが、ピンクの部分は、中央・山手ブロックから編入してくると説明した。中央・山手の中でもいくつかのプランを作っており、その検討経過の中で、中央・山手から切り離れた形で、こちらに受け入れる形で検討できないか整理をし、プラン4を作ったところである。</p> <p>具体的に言う、このピンクの部分は色内小学校の校区である。中央・山手ブロックは、狭い地域にたくさんの学校があり、色々なパターンを用意した。稲穂小との統合を考えた場合に、色内小学校の校区を全部稲穂小へという考えもあるが、色内小は、手宮地区とも接している。臨港線から国道に入ってくるころは、小樽でも一番長い信号を渡らなければならないところと考え、果たしてそこを渡らせて稲穂小へ行くことが、通学路上良いのかという考え方で、そのような線引きをした。そのときに、色内小は手宮地区へ、ピンクの所は長橋小の方が近いのではということでプラン4を作った。これだけ見れば取って付けたように見えるが、境界線の部分はそういうことがある。若竹小学校でも潮見台小に近ところと桜小に近ところがある。これだけ見ると唐突ではあるが、中央・山手地区としては、色々なプランとして考えられる一つの選択肢である。</p>
	<p>10</p> <p>統合を望んでいる者だが、最短で何年になるか。市としての考えは。</p>	<p>学校再編の手順としては、まずどこを統合校とするかという議論を先行する。統合校が決まれば、通学区域、通学距離、事前交流という段階に入っていく。仮に、22年度、今年統合校が決まったとすれば、教育委員会としては、具体的に統合するまでに、準備に1年間は必要だと考えている。ご心配の件、統合校が決まって、1年間準備となれば、来年行くのであれば、もう行こうということが起きると思う。市教委としては、このような場で話し合いをしているのであるから、1年であっても、一緒に学校へ入って、行くときはみんな一緒に一緒に行こうというスタンスで議論、協議をさせていただきたいと考えている。</p> <p>今、プランを示して話をしているが、来年から統合ということにはならない。統合校を今年決められるのであれば、最低でも来年度、1年間は統合に向けた準備をする。そして翌年みんなで行こうということになる。一方では、ここにプランで示した長橋小学校はもともキャパが大きいのでそれほど支障はないが、改修が必要となってくる場合がある。教室はあるが、20年くらい使っていない場合もあるので、改修しなければならないので、最短でもそのくらいは必要である。これも、皆さんの議論次第ではあるが。</p>
	<p>11</p> <p>子どもは、今1年だが、資料の中で、2年程度かけてと書いてあるので、卒業してからということになるかと思うが、教科の話で、数学を教えて、美術も教えてというパターンがこの学校でもある。この間統合しないのであれば専門の先生を配置して、授業をお願いしたい。</p>	<p>免許のない先生がいる場合、校長が勝手にこの教科はこの先生と決めることはできない。北海道教育委員会の許可を得なければ、免許外の教科を教えることはできない制度になっている。現行制度では、そこまでが精一杯である。免許を持っているよその学校の先生が授業をすることも認められていない。英語や数学は、ティームティーチング方式で1教室に二人の先生を配置し、退職校長や退職教員を入れて、数学など極力そのようなことがないように、解消に努めている。全国的にも東京都以外は、必ず、免許外がいる状況にあるので、理解願いたい。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
塩谷小・中	<p>12 部長の話で新しい学校がはやりという発言があったが、私は保守的な考えで、いつまでも地域の子どもたちにはこの校歌を歌ってやりたいと考えている。統廃合の進め方で、決まったところから準備を進めていくことを話されたが、小学校が決まれば小学校、中学校が決まれば中学校ということであったが、ブロック、特にこのブロックで考えれば中学校から統廃合をしないと、昨年の説明では小学校で換わって、中学校でまた換わるのは避けたいという話だったので、順序は中学校からやらなければうまくいかないのではないかと。</p>	<p>地区、地区で色々条件が異なっており、中央・山手地区では、校区が複雑であることから、小学校を先行して、小学校の校区を落ち着かせてから中学校に手をつけなければならないと考えている。この地区は、小学校を先に再編すると、2回繰り返さないことを考えると、相当長い期間置かなければならない状況となる。小学校と同時という考えもあるが、時期がずれるのであれば、中学校の再編を先にやらなければならないと考えている。</p>
	<p>13 できれば、この小学校は残してほしい。</p>	<p>学校再編計画の中では、どこを残すということの発想ではやっていない。あくまでも、一つのブロックの中でどこを統合校にしようかという考え方で、この学校を存続してくれという議論にはならない。思いは受け止める。</p>
幸小 7月9日	<p>1 昨年の説明の際に1クラス30人程度と聞いたが、今回35人で1学級となっている。その人数について教えてほしい。</p>	<p>昨年の素案説明会、基本計画の中で1学級当たり約30人と、昨年5月1日現在の市内の平均の児童数で説明していた。今、発言のとおり資料6ページを見ていただくと、プラン1のBグループ、幸小学校単独の場合1年生が27年になった場合に22人という数値が出ている。さらに4年生は37人となっている。お話いただいた35人というのはプラン3の場合の1年生の人数だが、私どもこのプラン、組み合わせを作っていく中で、基本的には小学校の場合12学級になるように検討はしたが、現実にはどうしてもそのようなならない学年というのは出てくる。基本計画の中でも、皆さんからのご意見を踏まえ、何が何でも12学級だという表現ではなく、場合によっては12学級にならないということは想定される旨記載をしている。現実には幸小学校に通われる通学区域内の27年度推計を出すと、これが実態になってしまうということでご理解いただきたい。</p> <p>今、言ったことに尽きるが、私どもは今回の学校再編をするに当たって、極端に大きな学校を作る、あるいは1クラスの人数を増やしていくという考えではもちろんない。逆に、小学校では12クラスを目指しているが、今日示しているプランの中では、残念ながら幸小学校では12クラスに届くところはない。最大でも11クラス。プラン3というのは、長橋小学校の線路から上の方と、オタモイ3丁目の住宅生協の辺りを幸に入れたものを示している。もう一つ、プラン2との考え方で、忍路と塩谷も幸に入れる。そうするとプラン2と違って、黄色(の部分)は続いてくる。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
幸小	<p>2</p> <p>今、30人台弱程度で推移しているので、それが30人を超えると先生も大変だろうと思っている。また子どもさんも少ない人数でやってきたものが、急に40人近くなると戸惑うような子どもがいるのではないかと。昨年30人と聞いていたのに、30人以下で配置していただければ良いのかと思った。</p> <p>最大30人で、例えば35人のところを17人と18人の2クラスという考えでやっていただけないのか。去年、そのように理解していたので。そういう意味合いで、お話をしたのですが。</p>	<p>昨年の30人というのは、先ほど申し上げたとおり、市内の平均の1学級当たりの児童数。35人を17人と18人に分けられないかとのことだが、今の仕組みでは40人学級が基本。41人を超えると2学級になるが、それ以下は基本的にはできない仕組みとなっている。</p> <p>小学校1、2年生については、71人以上で2クラスが確保されるとなると、北海道の少人数研究事業の関係で、71人の場合3学級を作ることができます。ただし、例えば、2年生71人で3学級となっていたのが、そのままの人数で3年生になると、40人が上限ということで2学級になってしまう。人数的には、40人というのは、現状では変えられないということでご理解いただきたい。</p> <p>今のお話を聞くと、プラン1の4年生の37人のところを危惧しているかと思うが、30人を超えるような学級については、各学校においてきめ細かな対応をするよう、指導をして、進めていかなければならないと考えている。</p>
3	<p>塩谷方面から長橋小学校にスクールバスが出ていると思うが、それについての現状、良く知らないのですが、どのようになっているのか、いつから始まったのかお教えいただきたい。</p>	<p>スクールバスの件だが、スクールバスが導入される前に、制度として通学のバス助成というのがあった。現行では、小学生の場合片道2キロ、中学生の場合片道3キロ、そのうち2分の1以上バスに乗っていれば、定期の額を全額助成する制度がある。スクールバスについては、長橋小学校に通学する子どもたちはある一定の通学助成を受けている人数がいるということで、平成19年に長橋小学校と銭函小学校でスクールバスを導入したという状況である。</p>
4	<p>それは、塩谷方面から、どの辺の生徒が使っているのか。</p>	<p>制度の流れで補足する。バス助成というのは平成6年からやっている。距離は、中学校3キロ以上、小学校2キロ以上でやっていた。平成6年にスタートした時は冬の期間だけ、4か月間、定期代の2分の1。年間として考えれば、2か月分しかバス助成していなかった。皆さんからの要望等もあって、平成19年から全額助成とした。全額助成とした場合に、たくさん子どもさんのいる所は、定期代の全額助成よりもバス事業者にスクールバスの運行を委託した方が安いということで、長橋小学校の児童の皆さん、オタモイの住宅生協の辺りの方は2キロを超えているので、中央バスに2台委託して、朝何便かと帰りに何便かを運行している。帰りは4パターンくらい出している。塩谷から来ているというよりも長橋校区の2キロを超える児童の対応をしているという状況。</p> <p>もちろん、塩谷、忍路ということになると、忍路から長橋まで10キロ以上あるから、これは間違いなくスクールバスあるいは通学助成の対象にしていかなければならないと思っている。</p> <p>基本的な考え方として、中学生は部活があるので、スクールバスで決まった時間に帰りなさいというわけにはいかないもので、中学生は100%バス定期代の助成。小学生は、一定の人数がいればスクールバスだが、張確とか少ない所は小学生でも定期の全額補助という形でやっている。</p> <p>今回の学校再編は、41校を21校にしていこうというプランになっているものだから、今は長橋と銭函が大半だが、もっともっとバス助成、スクールバスの対象というのは広がっていくだろうと思っている。</p>
5	<p>私が聞きたいのは、一番遠方から、スクールバスを利用している一番遠い児童はどこからかということをお聞きしたい。オタモイに中央自動車学校がある。だいたいあの近辺ということになるのか。</p>	<p>この校区の一番遠方の住所は、はっきりと示せないが、スクールバスの始発は、新道踏切が始発となっている。自動車学校よりも少し塩谷寄りとなる。そこから通っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
幸小	<p>(この学校は)統合を受け入れる立場になるのがとても濃厚で、塩谷や忍路からスクールバスで通ってくることになると思うが、放課後、子どもたち同士が家に帰ってから遊ぶことが、校区が広がるので、そういうことは無くなっていく、遠い子とは。そうすると、幸の子は幸の子だけで固まって、塩谷や忍路の子はそっちの子でということになるという可能性は高い。それが少し心配だ。</p> <p>また、遠くから保護者も授業参観、懇談、学級行事、PTAの行事に来る、あと役員のことまで遠いから参加できないということで断られてしまうと、もともと幸小学校の校区の保護者に負担がかかると感じる。中々役員のなり手がいない中で、人数は増えるが、そういったところで本当に活気が出てくるのか心配はある。統合のことはあまり関係ないのかもしれないが、やはりそういう心配はある。子ども同士で遠いから遊べない、親がついて土日にその家まで行かなければならないというのは、関わりの中でどうなのかと思う。</p>	<p>校区が広がるので色々心配なことがある、それはそのとおりだと思う。校区が広がるということは、子どもたちの交友関係が増える、広がるということで、これまで学校の中では、それぞれの地区に関係なく一緒に学んで、一緒に遊ぶことはできると思うが、自分の住んでいる所よりも離れて住んでいる所の子どもについては、低学年であれば親と一緒になければそこにいけない。今の幼稚園がそのような状況になっている。以前、幼稚園はその地域の子を入れていたが、今は、幼稚園バスでどこでも行っているの、うちの子もそうだったが、遠くの子のところに行きたいとなると、休みの日に親が連れて行くということはあるが、そこは小学校においても校区が広がるのでそういうことは出てくるかと思う。</p> <p>PTAの役員のなり手がいないのではとの心配があると思うが、今後実際に統合の学校がはっきり分かった段階で、それぞれの地域からPTAの役員を、人数にそれぞれ違いはあるかもしれないが、出していただくような話し合いをすることも必要ではないかと思う。</p> <p>過去に統合した小学校の経緯を見るとPTA同士で話し合いを行って、それぞれの地域、元の学校のところからもそれぞれ出していかなければ駄目だという意見はあったと聞いている。</p> <p>おっしゃっていることはそのとおりだと思う。忍路から長橋まで10キロ、多少の距離ではないと思っている。長橋や幸から見ればそういう見方になるが、忍路から見れば、地域でも学校の中でも十数人という集団でしかなく、もっと広がりを作っていかなければならないと思っている。仲の良い友達が出来て一緒に遊びたい、その子は10キロ先だというのは大変なことだとは思いますが、こっちから見ると極めて固定した交友関係、そこをもっと広がりを持たせていかなければならないと思っている。</p> <p>PTAの関係、つい最近の懇談会で、複式の小さな学校だが、その保護者さんからは、家庭実数が15の学校で、正直言って運動会とか色々な学校行事はPTAとして持ち切れない、大変だと言っていた。家庭実数15でPTA活動をしているわけで、そこは考えなければいけないというご意見もあった。</p> <p>この校長先生ではないが、以前郡部の学校にいた際に3～4校の統合を経験したことがあるとのことで、統合した後は小さい学校の保護者はすごく一生懸命にやる。大きいところに行って、どうい付き合い、子どもたちもそうだが、親同士の付き合いもどのようにしていったら良いのだろうか、小さいから参加しないということではないようだ。これが例になるか分からないが、こういう話のある校長先生から伺ったことがある。</p> <p>いずれにしても、子ども同士の交流はもちろん、PTA、保護者同士の交流をするということで、子どもも安心する部分もあると思うので、ぜひ、ここのところは一定の時間をかけてもお願いしたいと思っている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
幸小	<p>7 一定の時間をかけてと言っているが、半年とか、1年とか、その期間がどのくらいか、具体的に決まっているのか。</p>	<p>繰り返しになるが、今日配付したこのリーフレットに年程度と書いている。「統合校が決まった後のスケジュールはどうなりますか」左側の吹き出しの下に、「2年程度かけて、保護者や地域の方の協力をもらいながら次のような事前の準備を行います。」としている。例えば、この1学期の時にこの地区はここを統合校としようと思ったとすれば、その段階から、まずは学校間での準備、保護者の方々との色々な話し合い、相談。校名とかを含めた部分で、そういう議論をしていただいて、もう1年置く。</p> <p>もう1年の中で、A校とB校では教材が違っているものを使っているとすれば、それぞれの学校でもう1年あるから、その学校にいる時から同じ教材でスタートしていき、そして次の年（に統合）。そういう意味で2年程度とされている。これがあまり長くなっても。具体的な心配は、例えばA校、B校の統合が決まり、5年後となってしまうと毎年新1年生が入って来るから、統合先の学校に行った方が良いのか、今の学校にいて、1年で入って5年に統合するという、長すぎても色々な問題が出てくるので、私どもとしては、1年程度、学校間、あるいは保護者さん同士の協議をして、残りの1年で子ども同士の色々な交流をする。そして統合を迎えるというのがイメージだと思っている。</p> <p>ひと月くらい前に、仁木町で80人くらいの小学校と10人くらいの小学校が来年統合する。</p> <p>今年10人くらいの小学校の子どもさんが毎月1回大きな学校に行って交流をして、来年を迎えるという記事も読んだこともあるので、形としてはそういう形が望ましいと思っている。</p>
長橋小 6月23日	<p>1 色内小学校の子どもたちが通学するには、西陵中学校の方が近いと思うが。</p>	<p>隣のブロック、中央・山手地区ブロックがあるが、今回の学校再編は全市的に41校を六つのブロックに分けて、プランを示して協議を進めている。今日配付した資料に広報おたる5月号があるが、地区別懇談会を開催しますというところの裏面をご覧ください。中央・山手地区の中学校のプランで、中央・山手地区の中学校は、西陵中、菁園中、松ヶ枝中の3校あり、この3校を2校に再編することで意見を聞いている。このプランの中で、Aグループ、Bグループのどちらかを統合校ということで示している。この中で中学校の位置をどこにするか、2校にする場合に、市教委の考え方としては菁園中は適切だと考えており、もう1か所は西陵中、松ヶ枝中のどちらかとして色々プランを示しているが、松ヶ枝中は築50年以上経ち、建て替えの時期に来ており、建て替えを急がなければならない。プランでは松ヶ枝中学校は今の最上小学校を中学校に改造し、そこに新しい中学校を作りたいという案を持っている。その場合、中学校はそこかと、先ほど言った菁園中が、教育委員会としてこの2校が統合校として適切だと判断している。その場合に、西陵中学校は（再編後の）統合校の位置としては無くなるので、先ほどのピンク色の部分では、長橋中が近くなるので、その部分について長橋中に編入しようという考え方。</p> <p>その（ピンク色の）色内小学校の校区の部分について、長橋1丁目、2丁目の砂留地区は長橋中学校に、稲穂5丁目、色内3丁目は西陵中を統合校としない場合には手宮方面の中学校に、手宮方面の中学校も手宮小か手宮西小のどちらかを中学校にという考え方を持っているので、そちらへ編入することを考えている。あくまでも教育委員会が考えたプランであり、皆さん色々な意見があると思い、先ほどの説明のように7月22日まで36会場で順次説明していくので、その中で色々な意見をいただき、一回で終わりとはならないので、以降も意見を聞かせていただき、二回目以降に生かしていきたいと考えている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
長橋小		<p>色内小学校と西陵中学校の地区別懇談会は先日終わり、長橋方面への編入案は、いくつかあるプランの中の一つということは説明した。それが良いとか、一番良いという話には、説明したばかりなので、まだなっていない。これから、何度か意見交換していく中で、地元の人が納得できる形にしていきたいと思っている。そのことと合わせて、説明の最後に触れたが、13ページの一番最後のところの四角で囲み、小学校のプラン4と中学校のプラン2を選択する場合は、これは今のピンク色の場所のことだが、このプランをこのブロックで選択した場合は、中央・山手地区ブロックでの議論とマッチしなければならないわけで、西陵中、色内小の学校再編との調整が必要、お互いに納得づくでやっていかねばならない。一つは話がついたが、もう一つの、隣は話がついていないというわけになれば、話はまとまらないわけで、そこは並行して議論していこうということで、ここに書いている。</p>
2	<p>このプラン4の色内小学校区を入れた場合、幸小学校校区はプラン3のように広げるということは考えていないのか。これだと長橋小学校が広がってしまうので、幸小学校校区をもう少し広げた方が、人数的には幸小学校に送れるのではないかと思うが、そういう案は考えていないのか。</p>	<p>こちらではプランを四つしか示していないということだが、色々なパターンを考え、その中で今回四つのプランを示した。先ほど言ったとおり、このプランはあくまでもたたき台であり、今言われたご意見でここを繋げる考え方もあるのではないかと、こちらをもっと広げる案もあっても良いのではないかと、そのような意見を今日聞きにきている。他の会場でもそのような意見をいただき、今後プランとしてどういう位置関係とか校区を設定していけば良いのかを考えていきたいと思っている。今のご意見、貴重なご意見として伺いたいと思う。</p>
3	<p>（教育委員会の問いかけに対して）                      スクールバスは利用していないので、実感はないが、スクールバスであれば、普通のバスのルートでなくても走ることはできる。それであれば、自動車学校の付近から幸小学校に向かっても良いかと思う。実際にはバスに乗り遅れた場合、路線バスを利用して帰りたいといった場合は、普通のバスが通っているルートの方が良いのではないかとはいえるが、今日は（4年生の母親ですが）見学旅行に行き、普通のスクールバスが4時40分1本だけ、到着予定が4時10分だったが、帰って来たのは25分くらい。中には30分くらい待たされるのではと心配して迎えに来ている親御さんもおられた。実際は、時間的にはちょうど良かったと思うが、ちょっとぎりぎりだったかと思った。そういう見学旅行とか修学旅行の場合に心配されている方もいるので、路線バスで帰れるルートの方が良いのかとも思うが、うちは実感がない。                      27年度は娘が中学生、下の子は4年生になるので、プランだけみると、人数の割り振りで考えるとプラン4に幸小学校はもう少し校区を広げた方が人数的にはバランスが良いのかと思って見ていたが、路線バスのルートなどもあると思うので、このままスクールバスという形で運行されるのであれば、また考えも違うが、いずれ路線バスに戻すというのであればバスの便の良い方法で割った方が良いのではと思う。路線バスの方が時間を気にせず、定期で乗れるという意味では良いと思うし、スクールバスは帰りに2本くらいしかないもので、掃除、委員会、クラブ活動で遅れた場合に心配という話は良く聞く。</p>	<p>こちらから問いかけをしたいと思うが、このプラン3でオタモイの自動車学校、給食調理場付近は長橋小学校の通学区域になっていて、そこから以前は路線バスを使って、今は、2年前から市でバスをチャーターしてスクールバスとして運行している地区だ。プラン3では、統合校が長橋小学校ではなく、幸小学校としている。同じ幸町、国道、JR線、地形とか地理的なものも考えて、このようなプランもあるのではないかと提案している。これについて率直な感じを持っているか、関心があるか。どうか。</p> <p>現在、長橋小でスクールバスを利用している児童が110人くらいいて、今のプランのように幸にということになれば、やはりこの方達の意見を聞いていかなければならない。貴重なご意見として、スクールバスもあるけれども、路線バスが通っていた方が何かあった時には良いということでも受けとめたが、それでよろしいか。現在スクールバスについては、学級閉鎖や午前中に終わる場合など、柔軟な対応ができるようにしているが、限界はある。それが一つということでご理解願いたいと思う。また、いただいた意見は今後の議論に生かしていきたいと思う。</p>
4	<p>耐震化工事の件は分かったが、学校の敷地自体はこのままか。長橋小学校の敷地はこのままか。</p>	<p>敷地については、別に変更は考えていない。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
長橋小	<p>5</p> <p>これだけ地域が広がると参観日の時など来られる親御さんが大変かと思う。運動会の時も自家用車で乗り入れないようにとは言っているが、毎年問題はあるので。自動車学校の方から来るとなるとお弁当とか荷物を持って車で来たいという方ももちろんいるし、参観日の時もご遠慮くださいと言っても、長橋は近いといっても線路の上の方だとバスに乗るまで不便だったりというのがるので、なおかつこれだけ広がると学校へ来る機会に車で来る方が増えると思う。このままの敷地、親御さんの車のことまで考えるのはどうかと思うが、さらに問題が増えるのではないかという心配も多少あるので、そこら辺はどうお考えなのか。</p>	<p>もっともな話、現実的な話だと思う。敷地については、簡単に広げることもできないので、建物が建っている部分や遊具の部分もある。お母さんの話は現実的な問題として差し迫ってきていると思うので、学校とも相談し効率的に車を停める、又は遠方の方は車で、近くの方には遠慮いただくなど、個別に対応していかなければならないと思う。</p>
忍路中 5月25日	<p>1</p> <p>今回の話で小さな学校は一切残さないという考えなのか、はっきり聞きたいと思う。</p>	<p>昨年度この会場で、適正化基本計画の素案をお示した時も、そのような議論はあったと思うが、私どもが再編に当たって考えているのは、ここを例にとると、小学校で6年間さらに中学校で3年間子どもたちが固定された人間関係で過ごすことを考えると、学校再編は必要だという前提に立って中学校で9学級、小学校で12学級の規模にしていきたいというのが、基本的な考え。</p>
	<p>2</p> <p>去年の説明会でも適正な規模という話が出たが、北海道でも人口が減っていて他の町でも適正配置を行っているという根拠になるものをきちんと出してほしい。こうすれば子どもたちにとって、教育効果が上がるとか。ここの学校では小学校からクラス替えがなく、再編していきたいという話があったが、多分、前に座られている皆さんは、学級数がそこそこの学校で育っていると思う。私自身は、小さな学校で育って何も困ったことがなく、胸を張って自分の学校が良かったと子どもたちにも話している。そういった中で、教育委員会が規模が適正ではないから、この学校はだめだと言っているように聞こえてしょうがない。それを子どもたちに言ってしまうと、この学校で自分が学んでいることは、あまり良くないと感じてしまうのではないかと思うが、まず適正な規模の根拠になるものを示してほしい。</p>	<p>昨年時の時の繰り返しになるが、まず規模の小さな学校を全く否定するものではないということをご理解願いたい。基本計画の中でもその長所について書いている。ただ一方で、クラス替えができないなど何点かある。一つは、先程発言された方から、根拠は何かとあったが、中学校で言えば、教科担任制ということで、一定の規模がなければ、専科の先生が、確保できないという点がある。9学級で16人の先生が配置されることになるので、多くの教科で専門の免許を持った先生の指導を受けられるということがある。そういうことから9学級を基本的に考えている。</p>
	<p>3</p> <p>先程、教育委員会の方が安全で、なおかつ安心して通える学校づくりのために学校再編をします、と話されていたが、耐震化によって、耐震強化を図れば、それで安心なのかという疑問がある。楽しく通える学校が子どもにとっても親にとっても、安全で安心な学校だと思う。その辺はどう考えているのか。</p>	<p>耐震化の関係だが、市内には多くの学校があるので、診断をして一定の順位を決めながら取り組んでいるのが実態。もちろん、校舎の安全性は当然確保していかなければならないから、そういう意味では、耐震化に向けた取り組みというのは、必要だという認識は持っている。</p> <p>昭和56年以前に建てられた校舎というのは、今の耐震基準を満たしていない、そのような校舎をたくさん持っているので順番は一定程度つけていかなければならないが、校舎の耐震化は進めていかなければならない。また、建築から40年以上経っている校舎については、耐震化工事だけではなくて建て替えということも考えていかなければならない。</p> <p>それから先程言われた安全、安心という意味では、私どもも施設のことだけだとは思っていない。通学路の問題、交通安全、暗い道など色々な部分での学校の安全、安心を当然考えている。また、それに対する対応もしていかなければならないと思っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中	<p>4</p> <p>それでは小樽市が適正規模としている以上、この後どんどん人口が減って、今現在平成27年度の子どもの数で適正な学校の数としているが、この後10年、20年後、さらに人口が減った場合、また適正配置をして、適正化規模にこだわって学校を再編していったら、どんどん小樽市に人が来ない方向に向かっていくのではないかと思います。とても、子どもを育てたいという若い人がいる町ではなく、なってしまうような気がしてならない。その辺はどうお考えか。学校再編はどんどん繰り返していくのか。</p>	<p>なかなか難しい問題。子どもの数というのはある面、親の数、人口の問題だと思っっている。残念ながら小樽市ではここ数年、二千人ずつ人口が減っているという現状がある。市としては人口対策でどういったことができるのか色々な取り組みはしている。基本的には雇用、働く場をどうやって確保していくのかというのが問題になると思う。残念ながら、日本国中を見ても、全体としても、人口減の局面に入っていて、もちろん地域的には東京など増えているところもあるようだが、札幌はもう頭打ちになってきている。全体的には減ってきている状況にあるようだ。私どもがこの計画を立てたのは、10年後、15年後がどうなっているのかと聞かれても、私どもは市の人間なのでなるべく人口は現状を維持する、または少しずつ増えるような政策は打っていきたいということは色々なところで申し上げているし、政策を進めているところでもある。ただ今回お出したのは、人口統計で出すと、小樽市は、十年後には十万人を切るのではないのかという議論はあるが、現実に平成27年ということでこの計画を作っているのは、一昨年生まれた子どもさんが、小学校に入ってくるころまでを見通して小樽の子どもの数がどの程度になるのか、そういった中で小学校については12学級、中学校については9学級という一つの基準を持って地区毎の学校再編を進めていく必要がある、そういう考え方で示したものだ。ですから、この先20年後に、これよりもさらに半分になったら、学校数も半分になるのかという議論ではなく、今現実に見通せる子どもさんの数をベースにしてこの計画を作ったということは、まずご理解をいただきたいと思っっている。現実的に昨年、736人のお子さんが市内で生まれている。これが、遠い将来に二百人になった時に、今の学校をずっと維持するのかと言われれば、その時期になれば考えなければならない時が来るのではないかと思います。ただ、私どもこの計画を立てたのは、昨年生まれた子どもさんが、大きくなって学年進行をしていくからその児童・生徒数の中で、どういった学校配置をすべきなのかということを示している計画だということで、ご理解をいただきたい。</p>
	<p>5</p> <p>このプランを見ると、この中学校は長橋中学校行きということになっているが、教育委員会は、学校教育推進計画の中で、地域に開かれた学校を目指してくださいとか、子どもを育てる上で、学校だけではなく家庭や地域の力も必要だと一生懸命力説していたが、それが、11キロも12キロも離れた学校に行くと、この地域は子どもたちを見ることがなくなってしまうのではないかと、子どもたちはスクールバスに乗って学校へ行き、バスで帰ってくると家庭に入ってしまう、行事すら何をやっているのか分からない。そんな中で地域にとっての学校というのも考えなければならぬ。切っても切り離せないものだと思う。そのことについてはどのように考えているか。</p>	<p>地域と学校との連携とか、地域の行事で子どもたちが参加するということを否定する気持ちは全然ありません。徒歩で帰れるところに学校があつて、そしてその学校も一定の規模があるというのが望ましいと思う。先程も言ったが、この体育館が建ったのは昭和47年、校舎が建ったのが49年です。この頃の中学校の生徒数は、150～160人くらいいたが、それがこの30年程度を経て、去年が15人、今年11人という規模になっている。この先平成27年度までの数字で見ている限り、20人を少し超える数字で推移していく中で、私ども教育委員会としては、小学校中学校については一定の規模を持って、様々な学校の勉強や部活、友人関係について考えた場合、学校再編をしていくべきではないかということ考えている。ですから、この地域に学校がなくなるということを考えれば、単純にあつた方がよいと思っっている。ただ現実に11人という規模がよいのかどうか。それについては皆さんと色々意見交換をし、議論をしていかなければならないと思う。</p>
	<p>6</p> <p>規模を考えて学校作りをした場合、この中学校がなくなるということになってしまふが、このブロックの中で長橋中学校と塩谷中学校と3校あるが、忍路中学校は、不登校の生徒が数十年出ていないと思う。それは子どもたちが、楽しく学校に通えている、それは先生方のおかげでもあり、地域のおかげでもあるが、そういう学校がなくなるのはおかしいと思う。不登校の子どもの対処については、どのように考えているか。</p>	<p>不登校について、確かにこの学校では、数が少ないというか、指導上の問題については、そのような傾向もあると思うが、一概に小さな学校だから大きいから多いとはいえないと思う。ここでは、先生や地域の力もあつて、子どもたちが健やかに育っていると認識をしている。ただ同じようなことが大きな学校であっても、適正な規模の中で、子どもが遅く育っていくことも私どもは考えているし、子どもに目が届くような生徒指導上の配慮についても考えていきたいと思っるのでご理解いただければと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中	<p>7</p> <p>不登校に関して、今年の春はいなかったが、ここ2年ぐらい続けて他の地域から受入れて、ここに進学している子どものお母さん方もすごく喜んでくれている。他の学校で、たまたま通いやすかったということもあったのだろうが、普通であれば、中学を卒業して高校進学は諦めなければならなかった子どもが一步踏み出せたというのは、この学校の特徴だと思う。しかし、教育委員会は、人数がいなければとかたくさんの中で育てなければというような言い方をするが、この人数ではだめなのか。高校へ行けば黙ってても40人学級になるし、たくさんの友達もできる。さらに大学に進学すれば、友達ももっと増える。この小さい学校ではだめなのか。</p>	<p>小さな学校がだめだということは私どもは毛頭考えてはいない。不登校の子どもたちが、高校へ進学していったことも聞いている。先生の努力もとてもよく分かる。私自身小さな学校にいたこともある。人間関係が一度崩れてしまうと、修復できずになかなか変わらないという例もあるし、そのことによっても高校に行ってもなかなか難しかったりするという話も実際にある。忍路では実際良い環境で子どもが育っていったと思うが、ではそれがすべてに当てはまるかという一概には言えないと思う。大きな学校に行くと、適正な規模の中で子どもたちが遅く育っていった、頑張ってもらえるように適正な規模と配置を考えているところであり、一概に小さいからだめだとか大きいから良いだとかの話にはならないと思う。</p> <p>先生方の人事について、この学校の保護者の方から、5教科だけは、免許を持っている先生をということで話があったので、私としましても去年と今年先生方の希望を優先しながら、条件に合うように、この学校で頑張ってみよう、という先生がいらしたので、子どもも先生も活力ある学校で進めてこられている。もしここにこられる先生の希望が、ある教科についてないという状況になると、それなりの規模であれば免許を持つ先生を揃えることは可能だが、校長先生を入れて5人で9教科を揃えるということは、大変ではないかと思う。希望どおりに、免許を持つ先生を揃えることができない場合が出てくると思う。9学級になると、先生の数は15人確保できるので、小さい学校が決して悪いということではないが、また、この学校で不登校の子どもが立ち直れたということは、先生方の全力をあげた姿が反映したのではないかと思う。ですから、この2、3年は、たまたまお母さん方の希望でこのような人事だったが、それがもし、3教科ぐらいしか免許を持つ先生がいなくて、あとは全部免許を持たない先生ということになると、課題は多いと思う。先生をはじめ、保護者の方が全力をあげて行っているということは、私も承知をしている。</p>
	<p>8</p> <p>通学のあり方に関してだが、プラン1も2も、長橋へ通学という話になっているが、この場合、忍路は人数が少ないから1便しか出ないとなると、子どもの体調により、乗り遅れてしまうことがあった場合、また帰りについては、部活などで、その子によって帰る時間が違う。この時期は、中体連に向けての練習もあるから、それが終わって、バスで帰って来ると20分ぐらいバスに乗って、ここからさらに奥に住んでいる子どもが歩いて帰ってくると7時、8時になる。天気の良い日なら良いが、吹雪いたり雨降りだったりすると、通学時間がどの程度になるのかということの検証はしているのか。ただ国道沿いに住む子どもの通学時間だけを地図でなぞるような話ではなく、一人一人生徒の家は違うので、例えば、忍路の港の近くに住んでいる子どももいるし、蘭島でも海側の奥の方に入っていた子どももいる。そういったことは、どう考えているのか。</p>	<p>今日配付している、「統合を進めるに当たって」という資料の中で、統合校の位置を決めたあと、通学についてはバスの利用もある。また徒歩の場合でも、この場所は道が狭いとか、夜は暗いとか問題は出てくると思う。それは、文字どおり具体的に通学路の選定や通学の安全上の問題として、準備期間の中で統合に至るまでの間、具体的に議論をしていかなければならない部分だと思っている。この地区では、小学校の再編プランについても先程話を少しさせていただいたが、この地区での可能性としてお聞きいただきたいが、一般的に小学生としてはスクールバス、中学生については路線バスの定期代を助成するというのが仕組みとなっている。ここの地区については、帰りは難しいかもしれないが、小学校も中学校もスクールバスということも考えていかなければならないと思う。これは今後の議論だが、議論の素材となると思う。帰る時でも、他のところの小学生は、銭函、長橋ではスクールバスを運行している。中学生では部活などの面からスクールバスは逆に難しいだろう。ただ、路線バスの朝の時間帯、1時間に1、2本しかない場合については、説明会でも話させていただいたし、銭函方面の経験面でもあるが、通学時間に合わせて、普通の路線バスのダイヤのほかに、スクール便という言い方をしているが、そういうようなものもバス会社と話をした経緯もある。いずれにしても今おっしゃった課題としては、文字どおり統合へ向けての色々な課題の中の一つの大きなものと考えている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中	<p>9 統合が決まらないうとそういった踏み込んだ話し合いは始まらないのか。統合が決まった後に思っていたのと違うということになりそうな感じがするが。バス通学を考えると、普通の人、スクールバスが出るとイメージしていると思う。それが路線バスの利用となると、ちょっと話が違うのではないかと思う。そういったプランもきちんと考えて、統廃合の考え方を出さないと色々な部分から賛成して良いものかどうか判断がきちんとできないと思う。実際、統合した場合に言っていたことと違う部分がいっぱい出てくるのではないかと思う。その辺はどう思うか。</p>	<p>今回プランの中では、13ページの最後のところで「バスによる通学になります。」としている。今現在小樽市内では、400人ぐらいの児童生徒がバスによる通学をしている。その形態は、忍路中央小学校では、スクールバスを走らせている。バス会社に委託をして専用のスクールバスを走らせている長橋小学校と銭函小学校、それから、路線バスを利用して張碓小学校に通っている、あるいは、北山中学校に祝津の子どもさんが、中央バスで通っているなど色々なやり方を併用してやっている。それでこのブロックではどういう形が良いのかというのは今後の話し合いになるが、今日すべてを決めるというやり方ではなく、その辺の具体的なプランに触れられていないような要望とか意見交換の場としたいというように話をしたので、今の話ではバスの利用形態について明確にもらった方が議論しやすい、というような意見だと思うが、それでよろしいか。</p>
	<p>10 決定する前に、全部のことを教えていただかないと、ということです。</p>	<p>今日のこの場で要望という形、条件という形で言っていただいて良いが、長橋に統合するとした場合に、中学生も路線バスではなくて往復スクールバスにして欲しいということがあれば、教育委員会がどのように考えているかということではなく、そのようにして欲しいということがあれば、私どもはそれを持ち帰る。今現在、200人ぐらいの小学生がバス通学で通っているが、中学生がこういう形、小学生はこういう形ということで話はしたが、仮にここの忍路から長橋へ行くのにこのようにして欲しい、すべきだということがあれば私どもはお伺いする。</p>
	<p>11 この統廃合の最終的な決定、どこを統合校としてやるというのは、どのように決めるのか。どういう基準で決めるのか、ふと疑問に思ったものだから。</p>	<p>今回の統合、学校再編の進め方というのは、A校を二つに分けてC校とD校にするという枠組みでは考えていない。今日示している塩谷・長橋地区での小学校の数、中学校の数を示していくつかのパターンを出した。配付した資料の中に、「この資料は地区別懇談会で参加者の活発な意見交換ができるという観点から作成したものです。」と書かせていただいた。これは昨年5月～7月まで、素案の説明会を行い、その中で「議論をするために、教育委員会でたたき台を作ってそして懇談会を行って」という意見をいただき、それを踏まえて出させていただいている。そして、この度全市36会場で懇談会を行う。その意味では、小樽中の意見を全部聞くということではなく、このブロックでは、このブロックの意見をまずお聞きして、条件面でまず私どもがお答えをしなければならぬ部分をまとめて次の段階に進んで行こうと考えている。今の段階ではまず教育委員会がお示したたたき台の説明をして、それに対してご意見をいただくという進め方を考えている。小さな学校を残すべきではないのかというご意見だろうと思っている。私どもご意見としてはもちろんお聞きする。まずは、市内を一回りして次の段階でということ考えている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
忍路中	<p>12 今中学校のプランが二つあるが、これ以外にも出るということか。</p>	<p>教育委員会としては二つのプランを出して、これが適切だという言い方をしている。教育委員会としては、この二つのプラン以外に出すという考えを持っていない。ただ、懇談の中で参加された方からこういうプランもあって良いのではないか、ということは当然出てくると思う。その議論の末、実際に再編するときには違う形になるということはあると思う。もちろん統合校としての考え方も出している。今日も示しているが、図面で違う色になっている部分についてどうだとか色々なことが出てくると思う。私どもとしてはこの統合の案としては長橋中学校が適切だと申し上げている。それに対して、いやそうではない、真ん中の塩谷中学校が良いのではないかという議論が出てきても、それを私どもは一つのご意見としてお聞きしなければならない。他の会場ではどうのご意見が出てくるかお聞きしたい。ただ、ご理解いただきたいのは、子どもが減っていく現状。今年小学校に入ったお子さんは、平成15年生まれだが、この年の小樽市の出生数というのは、930人くらいあった。先程も少し触れたが、去年は730人台だ。この間の6年間だけでも、200人落ちている、そういった中で、私どもとしては現状の小学校41校のままですとっていくということは考えられない。学校再編をしていくということをご理解いただきたい。これは全体的な議論だ。</p>
	<p>13 統廃合を効率よく進めなければならないというのはよく分かるが、その際、なくなってしまう学校について、耐震化について一切手をつけないという考えが読み取れてしまう場合がある。学校とは離れるが、ここは地域の避難場所になっていて耐震基準をクリアしていない学校をそのまま残しておくのか。そういった部分は、市の方でどう考えているのかお聞かせ願えるか。</p>	<p>学校の適正配置計画と合わせて、私どもは再編計画の後、学校をどうしていくのか、ということを考えていかなければならない立場だ。学校の土地も市の財産であり市民の財産なので、これについては市民の皆さんのご意見というものを十分に聞いていかなければならないと思っている。その意見を聞く場というのは、一つには、地区の懇談会があると思う。そのあとには、学校の再編計画ができた後の説明会、そのあとには協議会という場もあるので、そういった場も通じながら皆さんの意見をいただきながら考えていきたい。その際には学校の持っている特性というものもあって、今話があったように学校は避難所としても使われていることがあるので、そういったこと、あとは地域の特性、そういったものも考えながら、市としては全体的な観点から考えていきたいと思っている。当然避難所として機能を有している学校を残していく場合については、耐震化がどうなっているのかということも十分に考えていかなければならない。皆さん方のご意見をいただきながら十分に跡利用については考えていきたい。残す以上は耐震化については、しっかり考えていかなければならないと考えている。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>忍路中</p>	<p>14</p> <p>この後の流れについてどのように進めていくのか見えてこないで具体的に教えていただきたい。私は大きな学校であれ、小さな学校であれ、その地域に根差した学校作りで子どもたちが楽しく通えれば一番良いのではないのか、安心して通える学校が一番なのではないかということをごく願っている。ただ学校規模、適正な数というものにあまり踊らされないでほしいというのが願いだ。これからの、今後の流れについて教えてほしい。</p>	<p>これからの流れだが、先程私の方からお伝えしたことに重なる部分もあるが、この地区別懇談会は7月22日までほぼ毎日やっている。そこで、小樽の小中学校41校全部の方々と一当たりやっというと思っている。その中でいろいろ意見をいただいでいく。</p> <p>次の段階は、今日はこの地区のプランを、この会場で、説明をして了解されたとは全然思っていない。そちらの方から、最後にまとめた意見もいただいたし、このような意見が出たということについては認識をしていかなければならないと思う。</p> <p>次の話の段階だが、一つはこうして個別のPTAの皆さんや地域の皆さんとお話をしていくという場面もちろんあると思う。ただ場合によっては、地域の小・中一緒に話をするという場面もあるのかと思うし、それから中学校同士、この地区では中学校を1校にしたいと考えているので、対象になる学校は3校あるので3校で話をする場面もありうるだろうと思っている。また、色々な想定、色々な場面というものはある。ただ、去年の素案説明会の時にも、この会場でお話をさせていただいたが、大きくはこの計画は前期と後期に分かれている。前期は今年平成22年から平成29年までの8年間としている。ただこれは29年度にやるということではなく、一定程度その地域の合意、了解されたところから順次進めていこうというのが基本的な考えで、この地区は何年に、あの地区は何年にという進め方ではなく、まずは一当たり説明させていただいて、それでまた次の段階に進めていきたいと考えている。</p>
<p>長橋中 5月28日</p>	<p>1</p> <p>小学校の方は長橋小学校が平成22年度に耐震補強工事を行い、長橋中学校は平成23年度に耐震補強工事を行うということが載っているが、その補強工事だけで校舎の安全が保たれるものなのか。それは、この先何年間、その補強工事によって校舎を使用していける目処があるのか。</p>	<p>耐震補強工事は、昭和56年に耐震基準が変わって、新耐震と言っているが、56年以前に建てられた校舎や体育館については耐震補強工事が必要となっているが、長橋小は今年(工事に)入っている。長橋中は23年度予定だが、耐震補強工事をやることによって震度6強までの地震に耐えられるということになっていて、校舎、体育館、施設については、それぞれ耐用年数があるので、それについては耐用年数、校舎が使えるまでは、耐震補強工事をやっていたら大丈夫ということになる。</p> <p>耐震補強をしたからといって、100年もつとか、200年もつとかという話にはならない。耐震補強工事と建物自体の老朽化というのがあるので、それがずっと続く、耐えられるということではない。小樽市内の小中学校27校のうち19校が耐震優先度調査をした結果、耐震補強が必要だという結果が出た。中学校でも14校のうち10校で優先度調査の結果、耐震補強工事が必要だという結果が出ている。教育委員会としては一定の考え方をっており、長橋小学校、長橋中学校と順次補強工事をしていく考え。</p>